「世界を奪い返す」



（財）日本ハンドボール協会専務理事　**川上 憲太**

皆様明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新しい年の目標に向かってスタートを切られたことと思います。

さて、昨年暮れに諦めかけていた北京オリンピック出場のチャンスの扉が開かれました。我々はこのチャンスを最大限に生かす為、財源難の中、開催地立候補をしました。また男女ナショナルチームを急遽再編成し、男子には酒巻新監督を据え、準備を整えました。後は戦うのみです。そして**「世界を奪い返す」**のみです。皆さんの更なる応援を宜しくお願いします！

しかし、永年に亘り、日本代表がアジアの大会で悔しい思いを味わい続けてきた状況に対する日本の提案は、IHF 理事会の支持をとりつけました。それは「各大陸・地域の大会でオリンピックや世界選手権に通ずる試合はすべて IHF の主導のもとで行うべきである」という主張です。まだまだこの戦いは永く厳しい戦いとなると認識しています。日本協会は地道にこつこつと戦って参ります。私はどうしても**「世界を奪い返す」**という信念のもと、「臥薪嘗胆」の思いと「不退転」の決意を持って新春を迎えた次第です。

今年、心新たに実施する施策の一部をご紹介します。

「NTS センタートレーニングの実施」

中期強化計画の中心的活動の中に NTS 強化システムがあります。１月の松が明けない内からセンタートレーニングが実施され、今年は更に内容・ムードが厳しい中、行なわれました。まだまだ今の運用で良いか、改善点が多々あります。本当に発掘・育成が出来ているのか、成果が上がっているのかは、活動を展開しながら修正を加えていきます。

「ナショナルアカデミーの設置」

１月から東京・赤羽に NTC（ナショナルトレーニングセンター）が出来上がり、常設のハンドボールコート２面が、格安の宿泊費で 365 日・24 時間いつでも使用が出来ます。ナショナルチームは勿論、全てのカテゴリー、又、トップにつながる強化活動に全面的に利用出来る事となりました。ここに「ナショナルアカデミー」を設置し、全国の日本代表候補を鍛え上げるシステムを開始します。これは選手だけでなく、指導者・指導方法にも幅を広げたアカデミーにします。

「早くも世界選手権予選」

２月に男子世界選手権予選（アジア選手権）が開催されます。これには「４年後」を見据えた候補選手も参加させ、結果も欲しいですが、厳しい国際舞台での「心・技・体」のあり方を認識してもらいます。少数精鋭で候補選手の入れ替えを激しく行なって厳しさを打ち出していきます。

「ジャパンカップの実施」

日本代表の強化の為、又全国のサポーターの皆様に世界のトップチームのプレーを見ていただく為に、７月には国内で新生日本代表とのゲームを堪能していただく予定です。ここから**「世界を奪い返す」**ヒントを皆様とともに得たいと思います。

まだまだたくさんありますが、その都度施策を発表してまいります。これを実現するには、ひとえに全国の皆様のご理解、ご声援、ご協力なくしては何一つ出来ません。特に日本リーグ・実業団・学生界・高校・中学の皆様には絶大なるご理解とご支援を頂きたく、誌面をもってお願い申し上げます。関係者全員の総意を持って**「世界を奪い返す」**行動を開始しましょう。宜しくお願いいたします。

速報

第59回全日本総合選手権大会

男子は
大同特殊鋼が２年連続12回目の優勝
女子は
オムロンが３年連続11回目の優勝

2007年12月20日（木）から24日（月）まで東京都駒沢体育館で開催された第59回全日本総合選手権大会は、男子は大同特殊鋼が12回目、女子はオムロンが11回目の優勝を飾って幕を閉じた。



■最終順位

[男子]
優　勝　大同特殊鋼
第２位　大崎電気
第３位　日本体育大学
第３位　湧永製薬

[女子]
優　勝　オムロン
第２位　広島メイプルレッズ
第３位　北國銀行
第３位　ソニーセミコンダクタ九州

■個人表彰

[最優秀監督]
男子　清水　博之（大同特殊鋼）
女子　黄　慶泳（オムロン）

[最優秀選手]
男子　末松　誠（大同特殊鋼）
女子　勝田　祥子（オムロン）

【男子】

準決勝：12月23日（日）

大同特殊鋼　37（22-10、15-14）24　日本体育大学

社会人相手の２連戦、前回の接戦の疲れが隠せない日体大に対し、大同特殊鋼はスローオフ直後から激しいプレスDFをかけ、ゴールを遠くに感じさせた。日体大は退場を機に発奮し、昨日までの動きを取り戻そうとするが、勢いに乗る大同はルーズボールを確実にものにして速攻で得点を重ねる。日体大は大同のプレスDFが少しでも下がると、棚原、東長濱がロングシュートやカットインプレーで得点するが、修正の速い大同DFはすぐにプレスをかけて彼らの体力を奪う。

日体大は大同白にマンツーマンをつけて、大同のセットオフェンスを封じようとするが、大同は末松、武田のロングシュートやカットインプレーでものともせずに得点を重ねる。

後半、大同は白を下げ李を投入。対する日体大はDFを６－０に戻し、大同に負けないプレスDFを試みる。GK甲斐がナイスセーブを連発してリズムをつかんだ日体大は速攻で藤本、友利、小室が決め、７連取。昨日までの疲れを全く感じさせない動きをみせつける。そうなると大同は一層ひきしめて攻撃、GK荻田の素晴らしい反応によるナイスセーブと、富田の指示による高いDFで、日体大を引き離す。大同特殊鋼が貫禄をみせつけた試合であった。

大崎電気　36（14-15、22-13）28　湧永製薬

両チームの応援団のエールが響く中、湧永のスローオフ。古家のロングシュートで幕を開ける。大崎も宮崎のステップシュートで反撃するも、湧永GK志水がノーマークシュートを好セーブする展開。下川の速攻、山口のポストプレーなど着実に加点する湧永は、15分過ぎに５点差をつけリードする。一方大崎は猪妻、宮崎、東の５連取で同点とする。その後大崎GK濱口、湧永GK松村の好セーブが続き、一点を争う白熱した試合となり、15対14の湧永１点リードで前半終了。

後半、大崎は宮﨑のステップシュートで同点に追いつくと、湧永の新が２連取する。大崎はDFシステムを５－１に変化させ、湧永を撹乱させる。大崎は２次速攻を中心にGK濱口の好セーブから望月、豊田などが得点をあげ９連取し逆転。対する湧永は大崎の宮﨑にマンツーマンをつけ、東、福田のロングシュートなどで点差を詰めにかかるが、大崎も負けじと東のポストプレーなどを効果的に決め、得点を詰めさせない。湧永は、大崎の退場の好機を活かせず36対28で大崎勝利に終わる。

決勝：12月24日（月・祝）

大同特殊鋼　35（18-13、17-15）28　大崎電気

第59回全日本総合選手権大会、男子ファイナルは、日本リーグ勢を連破し、勢いに乗る日体大を下した大同特殊鋼と、ナショナルの中心選手を多く抱える大崎電気の対戦となった。

家永、福島両国際レフェリーにより、大崎電気のスローオフで、闘いの火蓋は切られた。開始早々、大崎はポストプレーから７mスローを得て、豊田が決めて先行。すぐさま大同



も、地引の速攻で返す。その後も、末松、白などで加点し、大崎は、宮崎、太田、中川、岩本、豊田とバランスよく加点し、20分過ぎには12対12と互角の展開となった。

このあたりから大同のDFが機能し、大崎が攻めあぐねている間に、大同は着々加点した。さらに、23分過ぎには、大崎の退場を機に、大同は末松の速攻2連取で、17対12と主導権を握った。大崎は立て直そうとチームタイムアウトを請求するが、ミスがらみで1点を返すに止まった。

後半に入り、大同は立ち上がりから4連取し、22対13と完全に優位な展開とした。大崎も踏ん張り17分には21対26と5点差まで詰め寄るが、大同はボールがよく回り、武田の高打点からのロングシュートなどと、GK高木の好セーブも加わり、ジリジリと差を広げて行った。26分過ぎには、34対24とこのゲーム最大の10点差をつけ、優勝の趨勢を決めた。

大同特殊鋼が35対28で2年連続、12回目の優勝を飾った。

【女子】 ……………………………………………………………

準決勝：12月23日（日）

オムロン　31（15-12、16-10）22　北國銀行

北國のスローオフで始まった準決勝は、オムロンが、洪の速攻で得点すると、すぐさま、カットインで北國上町が返す。その後も、オムロンは吉田の7mスロー、洪の速攻で加点し、北國も、サイド新田、小野澤のカットインで加点し、一進一退のゲームが続いた。しかし、25分過ぎの、北國の退場をきっかけに、オムロンが3連取し、前半を15対12で折り返した。

後半の立ち上がり、オムロンが、佐久川、洪、坂元の3連取で18対12。その後北國も、新田の速攻などで踏ん張る。しかし、10分過ぎから、東濱、洪らで5連取する。この間、北國は、オムロンDFを割ることができず、ロングシュート、パスミス、チャージングで、ボールを失っていった。たまらず北國は、チームタイムアウトを取るが、オムロンのボールコントロールミスを拾い速攻で1点を返すにとどまった。その後も流れは変わらず、オムロン水野の速攻で大勢は決した。

広島メイプルレッズ　35（21-14、14-19）33　ソニーセミコンダクタ九州

ソニー東の得点で幕を明けた。ソニーは、東や郭のカットインで得点を重ねれば、メイプルレッズは植垣のカットイン、坂口のサイドシュートなどで応戦。15分まで一進一退の攻防をみせる。18分にソニー17番が退場したのを機にメイプルレッズが怒涛の攻撃。20分までに16対11と差を広げる。メイプルレッズも退場者を出すが、その後もなかなか点差が縮まらないまま前半を折り返す。

後半開始7分、ソニーはメイプルレッズ金にマンツーマンをつけ、少しずつ自分たちのリズムを取り戻し得点を重ねる。ついに残り10分、同点に追いつき、ソニーが決めればメイプルレッズが決める緊張感のある攻防が続く。残り3分、メイプルレッズ大前のカットイン、植垣のミドルで均衡が破られ2点差。

残り30秒でソニーの田中が7mスローを決めるが、残り5秒でメイプルレッズ伊藤がとどめを刺し試合終了のホイッスル。2点差でメイプルレッズが決勝戦への切符を手にした。

決勝：12月24日（月・祝）

オムロン　35（15-9、20-18）27　広島メイプルレッズ

オムロン藤井のミドルシュートで幕を明けた女子決勝戦。オムロンは、先制した勢いをそのままに、洪、東濱などの得点により、12分までに8対1と広島メイプルレッズを突き放す。一方、広島メイプルレッズも金などの連続得点で反撃開始。しかし、なかなか点差は縮まらず、6点差のまま前半終了。

後半立ち上がり、両チームとも白熱した攻防を繰り広げる。オムロンは、さらに突き放しにかかるが、広島メイプルレッズも食らいつく。13分過ぎまで一進一退、6点差のまま時間は経過していく。しかし、ここからオムロンは連続得点で一気に攻勢をかけ、10点差に広げる。メイプルレッズはたまらずタイムアウト。

メイプルレッズ金の怒涛の連続得点で反撃し、トータル10得点の活躍を見せるものの、オムロンは藤井、佐久川などの得点で追随を許さない。終わってみれば、圧倒的な力を見せたオムロンが、全日本総合の優勝を手にした。





写真提供：スポーツイベント社

第18回 女子世界選手権大会

日本は19位、北京オリンピックIHF世界最終予選へ

総 評

（財）日本ハンドボール協会 女子強化部長 西窪 勝広

第18回女子世界選手権大会は、フランス南部に位置し古代闘牛場やメゾンカレデランの神殿など、卓越されたローマ建築を中心に形成された時代より2000年もの歴史を持つニームで予選ラウンドが開催された。

今大会より24カ国を6グループに分け、上位2カ国が本戦ラウンドへ、下位2カ国がプレジデントカップ（順位決定戦）へと進む新方式で運営された。

予選ラウンドEグループに属した日本はハンガリー、スペイン、コンゴ共和国との戦いとなった。本戦ラウンド進出で北京オリンピック出場権の獲得を目標に掲げ今大会に臨んだ。

※今大会の事前強化遠征をウクライナで行い旧ソ連監督の名称といわれたツルチン氏の偉大さを称えた記念大会に参戦し実戦面の強化に努めた。（後述）

日本　平均身長168㎝　体重63kg　年齢27歳

●初戦のハンガリーは前回大会の銅メダルのチーム

平均身長177㎝　体重69kg　年齢28歳

速攻やクイックスタートにより3対2と好スタートを切るが、ハンガリーの強打を中心にポストを絡めた攻撃、個々の高い個人技で打開され10対17とされる。日本は気迫に満ちた攻守で後半残り26対26と同点に追い着くが、最後には体力が勝敗を分け4点差での敗退となった。

●予選リーグ突破の重要な2戦目のスペイン戦

平均身長174㎝　体重69kg　年齢27歳

日本の固いDFからの速攻で得点し、組織的な攻撃打開から前半2点リードで折り返す。後半テクニカルミスから走られ、残り17分24対24となり接戦するが、相手2人退場のチャンスをものに出来ず7点差で2敗目。

●予選ラウンド最終戦のコンゴ共和国戦

平均身長168㎝　体重69kg　年齢25歳

開始10分、テクニカルミス等で2対6とリードを許すが、DFの踏ん張りで17分8対8の同点とする。しかしコンゴのフィジカル面に押され、前半2点ビハインドで折り返す。

後半もミスを速攻で運ばれ、残り10分8点差を付ける。残り1分3点差まで詰め寄る気迫を見せたが、3敗目となり19－24位順位決定戦に回ることとなった。

19－24位決定戦では19位を如何に確保するかが大きな課題であり、初戦の中国戦が最大の山であった。

中国戦の詳細は戦評を参照して頂くとし、組織的なDF、気迫あふれる攻撃で終始日本のリズムで戦い勝利した事は、評価に値する戦いであった。アジア大会、韓国での安東大会、今回の勝利と中国に対する3連勝は今後アジアで勝つ抜くための大きな自信となったことは間違いない。残りパラグアイ、アルゼンチンと連勝し19位で全日程を終了した。

ベルト監督の海外を知り尽くした戦術、藤本コーチの日本独自の速攻等の指導が調和し、クレバーな采配と木目細かい分析で日本選手をコントロールしたスタッフの力量は評価できた。また、選手のケアに日々勤めて頂いた佐久間、倉田両氏、分析で深夜まで取り組んで頂いた岡本氏には心からお礼申し上げたい。

選手の頑張りも賞賛に値する大会内容であったが、明記した体格差は戦術・スピードでカバーするのも限界を感じた。

今回の戦いを垣間見、日本の伝統でもあるボールへの執着心等、奇麗事ではなく華麗なプレーの中にも泥臭さが加味されなければ激戦は戦い抜くことは出来ないと感じた。

予選リーグ敗退という結果は真摯に受け止め反省しなければならないし、チームの総監督としての責任を痛感している。

日本選手のスピード、テクニックは各国と比較しても絶対に劣っているとは感じない。

世界、アジアで戦い抜く大型選手の発掘が課題である事を再認識した大



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

会でもあった。

Eグループ、プレジデントカップ会場の運営に関しては派手さは無いものの、毎試合集客数が多く、特に初戦のハンガリー戦は当日券もない状況で素晴らしい運営であった。

テクニカルミーティングは日本の国体を思わせるきめ細かい内容で、特にレフリーの判定に対するベンチの対応にはIHFから厳しい注意が促された。

ドーピングに対しても日本も厳しくルール化されてきているが、当然のごとくドーピングの違法性を訴える担当者の話しを聞き、日本の認識遅れと選手への指導のあり方を再確認した。

今大会の全ての試合内容、各国の戦術、運営等を細かく分析し反省課題を明確にし、日本ハンドボール協会全体の課題とし取り組んでまいります。

終わりになりましたが、国内合宿、海外遠征等にご支援いただいた役員、選手の所属の関係各位に心よりお礼を申し上げます。

最終順位及び各国の体格

		平均年齢	平均身長	平均体重
1位	ロシア	24.9	180.4	69.4
2位	ノルウェー	24.4	176.9	
3位	ドイツ	25.5	175.8	67.1
4位	ルーマニア	25.8	177.7	69.5
5位	フランス	26.2	175.2	66.6
6位	韓国	25.3	171.5	63.3
7位	アンゴラ	25.6	174.5	69.4
8位	ハンガリー	28.0	176.9	69.0
9位	クロアチア	23.5	177.6	69.1
10位	スペイン	27.3	174.0	69.8
11位	ポーランド	26.0	178.3	70.8
12位	マケドニア	24.3	175.6	72.6
13位	ウクライナ	25.8	177.8	69.4
14位	ブラジル	25.7	177.2	71.7
15位	チュニジア	23.6	174.8	68.2
16位	オーストリア	22.4	175.6	65.8
17位	コンゴ共和国	25.5	168.5	68.7
18位	カザフスタン	24.4	177.5	70.2
19位	**日本**	**27.3**	**168.6**	**63.0**
20位	アルゼンチン	22.1	172.2	67.8
21位	中国	22.5	178.2	68.8
22位	ドミニカ共和国	19.6	172.4	59.1
23位	パラグアイ	22.2	168.8	65.5
24位	オーストラリア	21.7	169.0	62.4
平均		24.6	174.8	67.7※

※ノルウェーの体重データがなかった為、23チームの平均

戦　評

◆第1日（12月2日（日））

ハンガリー　35（19－16，16－15）31　日　本

世界選手権初戦。迎え撃つは前回銅メダル、前々回銀メダル獲得の強豪ハンガリー。日本チームは名前負けせず立ち上がりから強みとする速いテンポのハンドボールを展開し、速攻やクイックスタートにより3対2と好スタートをきる。しかしハンガリーの強打を中心にポストを絡めたオフェンス、さらにはスーパープレーヤーゴルビッチの高い個人技により打開され、9分4対8とされたところでタイムアウト。小松のサイドや早船のカットインなどでくらいつくが、ハンガリーの多彩な攻撃を防げず、23分10対17とこの試合における最大得点差7点差をつけられる。ここから日本は奮起し、藤井の連続ロングさらにはGK勝田のセーブから速攻で佐久川から田中へのスカイで得点。ハンガリータイムアウト後のオフェンスを防ぐべく、ディフェンスをアグレッシブな3－2－1ディフェンスに変化し、速攻に持ち込み、残り1秒谷口のゴールで3点差として前半を終了した。

後半に入っても粘りのあるディフェンスで踏ん張りランニングシュートなど金城の3連発により日本がペースを掴む。勢いに乗った日本はマンツーマンディフェンスなどアグレッシブなディフェンスをしかけ、そこからの速攻で48分ついに26対26と同点とした。日本のパフォーマンスに最高の雰囲気となった会場では満員の観衆がウェーブ。

しかしながら、ここからさすがにハンガリーが地力をみせ、強烈なロングなどで加点され、またオフェンスにおいてもシュートブロックなどされ7分間得点できず、6連取されてしまった。最後まで粘り再度3点差まで詰め寄ったが、後一歩とどかなかった。

【日本の得点】田中6，金城5，早船4，小松3，藤井3，東濱2，佐久川2，坂元2，水野2，谷口2

◆第2日（12月3日（月））

スペイン　36（15－17，21－12）29　日　本

予選リーグ突破をかけた勝負の試合。5－1DFで力強くコンタクトしてくるスペインに対しロングやカットインで早船が3発、固いディフェンスから速攻で坂元のポストなど開始5分5対2と最高の立ち上がり。なおも相手退場によりスペインの絶対的エース・ゴンザレスにマンツーをつけるも逆に2失点してしまい、突き放すチャンスを逃す。日本の攻撃を防げず6－0ディフェンスにシステムを変更し対応しようとするスペインに対し、組織的な攻撃により打開をする。ディフェンスにおいて相手ミスを誘い、またGK勝田のファインセーブもあり水野や早船の速攻で18分11対8とする。さらに日本は東濱のロングシュートや早船が得点を重ね、26分田中から坂元への速攻で16対13としたところでスペインタイムアウト。くらいつくスペインであったが2点リードして前半終了。

後半たちあがり、カットインでやられだし、すぐに追いつ

かれ、少し動揺した日本であったが、この日絶好調の早船がここまで8/8の活躍でつないでいく。スペインのオフェンスが組織的な組み立てから継続的なものになり、守りきれず40分20対23とされてしまう。しかし43分に相手2人退場のチャンスをものにし、佐久川のゴールで24対24と同点とする。されに勢いに乗りたい日本であったが、オフェンスにおいてテクニカルミスをし、速攻に走られ失点してしまう。50分に25対29と点差を離され始め焦りのでた日本は、強引なプレーにより、さらにミスを重ね、55分28対35と勝負を決められてしまった。

【日本の得点】 早船12，東濱3，佐久川3，坂元3，水野3，田中2，藤井2，小松1

◆第3日（12月4日（火））

コンゴ共和国　32（15－13，17－15）28　日　本

予選リーグ最終戦、コンタクトしてからの粘りある突破や強烈なランニングシュートを武器とした、フィジカルの強いチーム、コンゴとの一戦。テクニカルミス、シュートミスが続き10分2対6とリードを許す展開となった。ディフェンスで相手のミスを誘い、佐久川の速攻で4対6とするもリズムをつかめず12分4対7となったところでタイムアウト。たてなおしを図ろうとしたがパス・キャッチミスが続き重い展開となる。ここでGK飛田がナイスセーブをし、谷口、佐久川、田中の速攻3連発で17分一気に8対8同点とした。22分に訪れた2人退場のピンチも藤井のロング、植垣のカットインでしのぐ。しかし動きの悪い日本はディフェンスラインが定まらずロング、カットインとしぼりきれずにやられる展開。またオフェンスも連動が少なく孤立し得点ができず、13対15と2点ビハインドで前半終了した。

後半に入っても勝利獲得へ力んだプレーが多く、強引気味なロングシュートなどで得点できず37分15対18と点差をつめられない。GK勝田の速攻ノーマークセーブでピンチをしのぐも、41分に訪れた相手退場のチャンスもディフェンスにおいてカットインされ好機を活かせず、ミスを速攻で運ばれ46分18対23と離される。さらに焦りの見え出した日本は、ディフェンスがばらばらになり、カットインにより間を割られ退場者をだし、オフェンスでも攻めきれず逆速攻をされ50分19対27と8点差をつけられてしまう。残り時間も少なくなり、高いマンツーマンディフェンスをしかけ、またクイックスタートによりなんとか早く点差を縮めようとし、残り1分3点差まですするが時すでに遅し。

予選リーグ4位となり、19－24位順位決定戦にまわることになった。

【日本の得点】 田中7，金城6，佐久川4，坂元4，小松2東濱1，藤井1，早船1，谷口1，植垣1

◆第4日（12月6日（木））

<プレジデントカップP4組>

日　本　30（14－13，16－9）22　中　国

高さのある中国の6－0ディフェンスに対し、スピードのあるボール回しを継続し、横の揺さぶりをかけながら東濱のロングシュートや坂元のポストプレーで打開していく。さらにはGK勝田のファインセーブからハイテンポな速攻展開にもって行き13分7対4とリードする。中国も負けじと速攻をかけてくるが、ファイティングスピリットあふれる日本は、臆することなく積極的にプレーした。退場者をだし詰め寄られる。ピンチとなるも、GK飛田が7mスローをセーブししのぎ、田中のサイドハンドステップシュートにより19分10対7とリードを保つ。さらに22分早船のロングシュートで4点差としたところで中国タイムアウト。たてなおしを図ってきた中国に速攻などで押し込まれて14対13と1点差までつめよられて前半終了した。

後半に入ってもセンター田中の組み立てから、組織的に継続性のあるオフェンスを展開し、バックプレーヤーが強気にシュートを狙っていく。ディフェンスにおいてもコンパクトなゾーンディフェンスにより中国のミスを発生させ、速攻に運んでいった。日本のペースで試合は進み藤井のロングで38分19対15とリードを広げたが退場者を出し、オフェンスでミスをし、逆速攻などで、45分20対18とされる。しかしこの試合の日本は強気なプレーを展開し、クロスプレーを中心とした継続性のあるオフェンスからミドルシュートを決め、さらに逆速攻から田中の得点で23対19とリードを広げる。中国のカットインや速攻で50分再度2点差とされるが終始弱気なところをみせず、24対21としたところで中国のタイムアウト。ここで積極的に1人マンツーをつけるディフェンスをしかけ中国のリズムをとらせずミスをさせ、速攻で得点し点差を広げた。残り5分攻撃の手を緩めず、植垣や田中のロングシュートで8点差までひろげて勝利した。

【日本の得点】田中 13，東濱 7，藤井 4，早船 2，植垣 2，坂元 1，水野 1

◆第 6 日（12 月 8 日（土））
＜プレジデントカップＰ４組＞
日　本　36（23－4，13－4）8　パラグアイ

1 日休みを挟んでの一戦は南米パラグアイとの試合。アップから集中力のある日本は試合開始と同時に DF からの速攻で得点を重ねていく。コンパクトな 6－0 DF で相手のカットインを防ぎ大前の速攻 4 連発を含む怒涛の攻撃で 7 分までで 9 対 0 と爆発。その後も長野や藤井のスティールから佐久川や小野澤の速攻で 19 分には 20 対 1 と大量リードした。

後半に入っても、パラグアイのテクニカルミスを速攻で運ぶ展開で植垣や東濱が得点し快勝した。

【日本の得点】大前 8，佐久川 6，東濱 5，小野澤 5，藤井 4，植垣 4，金城 2，早船 1，長野 1

◆第 7 日（12 月 9 日（日））
＜ 19 － 20 位決定戦＞
日　本　31（19－10，12－10）20　アルゼンチン

19 位― 20 位決定戦となったアルゼンチン戦。世界選手権最終戦ということもあって、試合開始から勝利へ気持ちのはいった日本は、ディフェンスにおいてアルゼンチンのミスを発生させ、田中や小松の速攻などで 9 分 8 対 3 と 5 点差にひろげスタートダッシュに成功する。アルゼンチンが日本のリズムを狂わそうとゲームメーカー田中にマンツーマンディフェンスをするも、早船や東濱のロングシュートや佐久川の速攻と手を緩めず前半で 19 対 10 と大きくリードした。

後半に入ってもペースを握った日本は、ディフェンスからリズムをつくり、アルゼンチンにチャンスを与えず、小野澤や坂元の速攻で加点していった。終盤少し気の緩みからか、オフェンスでのイージーミスやディフェンスで押し込まれたかたちで 7 m スローをとられたが、点差をキープし最終戦を勝利で飾った。この結果フランス世界選手権では日本は 19 位となった。

【日本の得点】早船 7，佐久川 5，田中 4，水野 4，東濱 3，坂元 2，植垣 2，小松 1，小野澤 1，金城 1，藤井 1

IHF 世界最終予選

期　間：2008 年 3 月 28 日、29、30 日
開催国：未定
条　件：12 チームが 3 グループに分かれリーグ戦を行い、各グループ上位 2 チームがオリンピック出場権を得る

Ⅰグループ	Ⅱグループ	Ⅲグループ
ドイツ	ルーマニア	フランス
ハンガリー	アンゴラ	韓国
スウェーデン	日本	アフリカ大陸
キューバ	クロアチア	カタール

※アフリカ大陸予選が終了していない関係で、組合せ変更の可能性あり
（2007 年 12 月末現在）

ツルチンカップ in ウクライナ

期間：2007 年 11 月 22 日～ 25 日

（財）日本ハンドボール協会　岡本　大

1．大会運営

21 日の空港到着時、専務理事自ら出迎えに現われ、大会参加感謝の意を表された。滞在先となったのはキエフ中心からバスで 20 分ほどのオリンピックスポーツベースというトレーニング拠点内部で宿泊施設に関して大きな問題はなかった。またトレーニング場と食堂も近辺にあり便利であった。試合会場はキエフ中心にある劇場で、観衆が多く入った。移動にはバスが用意され、各チームにはチーム係が帯同し、大会期間中通して水の配布やミーティングルームの確保など細やかな対応がなされた。

22 日に行われたテクニカルミーティング後には、各チームのスタッフがレセプションパーティに招待され、フレンドリーな関係を構築できた。大会期簡中に各チーム代表がツルチン婦人やスポーツ庁及びハンドボール協会要人と共にツルチン氏の墓前に赴き、彼の偉大な業績（オリンピック金メダル獲得 2 度）を称え、哀悼の意をささげるセレモニーがあった。25 日大会最終日の夜にはフェアウェルパーティーが催され、すばらしいプレーヤー間の交流の機会が与えられた。

2．参加チームの特徴

〈ウクライナ〉バックプレーヤー陣は大型な体型を活かした強力なロングシュートを有している。またサイド陣は力強い突破を常に狙っており、ボールを所有した際にかなりの確率でアタックしてくる。また DF においては 5－1 DF システムでアグレッシブな活動をし、非常に激しくコンタクトしてくる。大型であるが動きは早く、速攻もどんどん試行してくる。個の力があるのに加え、組織力も有している。

〈オーストリア〉プレーヤーはやはり大型でシュート力がある。ポストプレーヤーも大型で、ポジショニングも良くワンハンドキャッチ技術により日本の届かないところを攻撃してくる。DF は高さを活かした 6－0 DF システムを使用している。ただしオーストリアのプレーヤーは高さはあるがスピードがなく、フットワーク力も弱い。

〈アルゼンチン〉アグレッシブな 5－1 DF により攻撃を遮断しようコンタクトしてくる。大きさはないが力強いプレーをする。しかし攻撃においてまだ洗練されておらず、テクニカルミスが多い。全員が前面にメンタルを表現し、勢いにのることができる。

3．その他

食事は量的にはまったく問題なく、質的にもそれほど問題となるものではなかった。しかしながら水道水が鉄のような匂いがすることもあり、体調（下痢）を崩す選手がいた。

4．成績

1 位　ウクライナ、2 位　日本、3 位　オーストリア、
4 位　アルゼンチン
※藤井 紫緒（優秀選手）

高松宮記念杯
男子第50回・女子第43回
平成19年度
全日本学生
ハンドボール
選手権大会





2点共 写真提供：スポーツイベント社

総　評

全日本学生ハンドボール連盟委員長　田渕 元雄

高松宮記念杯男子第50回・女子第43回・全日本学生選手権大会は、11月10日より14日まで、函館市民体育館を主会場として、函館大学体育館、函館大学付属有斗高校体育館において開催された。男子は、1958年（昭和33年）に第一回大会が駒沢にて開催されて以来、半世紀を経過、第50回を向える節目の大会は、昨年に続き日体大が連覇（通算18回目）、女子は、筑波大が昨年に続き連覇（通算10回目）、本年度の学生日本一のタイトルを手中にした。

男子は、大会前の下馬評では、U－23・U－21の代表選手を多数擁し、パワーとスピードを兼ね備えた攻撃力の日体大を本命に、全員ハンドで好守の日本大、銘刈を初め日体大同様に駒揃いの筑波大、前里を軸に幅広い攻撃力を見せる早稲田の関東勢と、西日本では主力の怪我でシードを逸したが、谷村を軸にした安定したOF力で関西秋季リーグを制した大体大、西日本シードの関西大・名城大・中部大・中京大が追う展開と予想されていた。しかし、一回戦で、第一シード関西大が関東秋季リーグで2部落ちした明治大に、第二シード名城大が関東の秋季リーグで入替戦に回った法政大に敗れる波乱の幕開けとなった。

二回戦で、どちらも優勝候補の一角に上がっていた早稲田—大体大の激突があり、期待にたがわず今大会のベストゲームに数えられる好試合となった。先手を取った大体大が有利に展開したが、後半立ち上がり、退場者が出た大体大を早稲田が、松信のリバウンドの好捕や前里のミドルから4連取し逆転、そのまま逃げ切り、勝ち上がった。

第一シード関西大や伝統校同志社・関学大、他が一回戦で、また、二回戦で大体大、大経大の関西勢が早々と敗退、ベスト8は関東6大学、東海2大学となったが、関東勢が勝ち上がりベスト4を占め、準決勝戦は、日体大—筑波大・日本大—早稲田の対戦となった。共にどちらが勝つか判らないような接戦を制した日体大と、此処5年連続3位であった日本大が早稲田に逆転勝利し決勝戦進出。決勝戦は17年振りに日体大—日本大の対戦となったが、日体大が先制しペースを握り、そのまま押し切った。

今大会で、過去、一回戦の壁に泣かされていた北信越が、金沢大の活躍で勝ち上った事や、一回戦でエースが負傷しながら二回戦で善戦した函館大、第一シードの関西大を破った明治大、三回戦で日体大を苦しめた中京大の健闘が光ったが、反面、二回戦で総て敗退した関西勢の不振が目立っていた。

次代を担うU－21・U－23の全日本選手の棚原、東長濱、甲斐、石川、銘刈、谷村、前里、他の選手の活躍も認められ、ロンドン五輪への期待を持たせてくれた。

女子は、筑波大が、GK下地、CP石立・山下・作内・山野他カテゴリーの全日本選手を擁し、ミドル、カットイン、速攻で何処からでも点の取れるOFと、下地の堅守を要とした安定したDFで優勝候補の筆頭に上げられ、それを東女体、大教大、武庫川が追う展開が予想された。

決勝戦は準決勝までを圧倒的な強さで勝ち上がった筑波大と、稲葉、国保、他の2年生中心の若いパワーを張（アテネ五輪韓国代表）がうまく生かし、一戦毎にチーム力を上げてきた東女体との対戦となったが、総合力で上回る筑波大が制した。

過去にシードの常連であった福教大、日体大、中京女大、日女体、国士舘などがノーシード落ちした事で、一回戦から1点を争う接戦が見られはしたが、依然として地域差も認められる大差の試合もあった。

近時、レベルアップが顕著な北信越の小松短大、東北の富士大が一回戦の壁を突破した事、更に、一回戦で福教大を破った日女体が、二回戦でもシードの大体大を破ってベスト8へ進出した活躍が目立ったが、反面、過去17回と最多の優勝を誇る日体大や、常に上位進出の福教大が一回戦での敗退が印象に残った。

男子優勝：日本体育大学（2年連続18回目）

インカレを優勝して

日本体育大学主将　友利 彬彦


写真提供：スポーツイベント社

平成19年11月9日から14日まで北海道・函館で行なわれた全日本インカレで二連覇したことを大変嬉しく思っています。私が下級生の時、二年連続決勝で一点差で負けたという悔しい思いをしたので、二連覇したことに満足しています。

今年は春・秋リーグ戦で優勝したものの、両リーグ戦とも早稲田大学に負けていることや、レギュラーメンバーの5人が下級生ということもあって不安材料もありました。しかし、全日本インカレで私たちのチームに自信があったのは、やはり「走り」でした。どのチームにも負けないくらい走り込んだので、体力では負けない自信がありました。一年中を通した走り込みをしてきたのですが、一番印象深いのは春・夏合宿で何度も倒れそうになったことでした。しかし、その成果として今の「走り」というものが身に付き、優勝をすることが出来たと思っています。

私は4年生最後の学年で優勝出来たということをとても誇りに思っています。優勝出来たのは他の4年生をはじめチーム全員、マネージャー、指導してくださった監督、コーチ、トレーナー、そして今日まで支えてくれた保護者の力強い応援があったからこそと思います。本当にありがとうございました。後輩達へは今後も全日本インカレで三連覇・四連覇を目指して頑張ってほしいと願っています。



女子優勝：筑波大学（2年連続10回目）

このメンバーで優勝できて良かった。
このメンバーで結果を残せて嬉しかった。

筑波大学　島崎 愛弓


写真提供：スポーツイベント社

大学4年目、最後の大会を“優勝”という成績を残せて終わった今、周りの人に伝えたいことは、『ありがとう』という言葉です。

1年前の名古屋インカレを優勝とい形で終わって引き継いだ主将という大きな“責任”は、無力な私にとっては一人で抱えきれるものではありませんでした。

たくさんの方々に力を借りて歩んできた1年間であり、色々な事を考えさせられた1年間でした。

「筑波大学」だからといって必ず強いわけではありません。監督からは、「このチームは弱い」「絶対勝てない」「リーグは辞退しろ」といわれたこともあります。そんなチームが最後に笑うことができたのは、周りの人の力に恵まれていたからです。

私が立ち止まりそうになった時、いつも背中を押してくださるOGの方。

頼りない4年生についてきてくれ、大きな力を与えてくれた後輩たち。

遠くから支えてくれている両親。

私の一番の力となったものは、同級生4人でした。この5人だからここまでこれた。そう思います。

そして、私達を決勝のコートに立たせてくださった水上先生・河村先生の力。皆さん、本当にありがとうございました。

このチームは決して強くなかったけれど、こんなにも多くの人の力があったからこの結果があるのだと思います。「チーム」であったから勝てた。「私は何もできていない」ではなく、インカレの優勝というものは、チームの一人一人がその役割を果たせたからつかむことのできた栄光。

筑波大学を応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

そして最後に…無心・自信・確信　　桐の葉伝説はまだまだ続きます。


写真提供：スポーツイベント社

戦　評

■男子

◇準決勝戦第一試合（11月13日・函館市民体育館、審判員＝浜田浩和・小笠原久郎）

日本体育大学　33（19－14、14－18）32　筑波大学



4点共　写真提供：スポーツイベ　・社

開始1分、藤本の速攻で先制した日体大が、藤本・石川の速攻・ミドル等でコンスタントに加点、筑波大は銘刈・松永のミドル・樋口の速攻などでの応酬となったが、今一つペースを掴めず、18分20秒には14対8、その後、3連取で14対11としたが、22分49秒、石川の速攻から棚原、藤本の4連取で日体大が18対11とし、GK甲斐の好捕もあり、筑波大の得点を3点に押さえ、19対14で折り返す。後半は、樋口の得点からリズムを取り戻した筑波大が、日体大の攻撃が散発の間に徐々に追い上げた。日体大が9分19秒から約5分間無得点の間に、佐藤・樋口で追い上げ、木切倉の速攻で25対24と逆転。しかし、日体大も積極的なDFから速攻に結びつけ、25分に再度逆転。27分19秒で33対31、筑波大が残り40秒、樋口の速攻が決まり1点差としたが、日体大が逃げ切った。

〈得点〉

日体大＝藤本・石川各8点、棚原5点・東長濱4点、他

筑波大＝樋口11点・銘刈6点・松永5点・木切倉5点、他

◇準決勝戦第二試合（11月13日・函館市民体育館、審判員＝河合　哲・田中　潤）

日本大学　28（11－16、17－8）24　早稲田大学

堅いDFにエース村上のミドルと両サイドに得点力を持つ日本大と、エース前里と突進力のある夏山、U－21の野村を擁する早稲田の対戦は、両エースの活躍で立ち上がりから1点を争う展開となった。17分過ぎ橋本・村上の退場から早稲田が3連取し優位に立ち、前半は16対11で折り返す。後半の立ち上がり2分過ぎから、日本大が反撃し5連取して1点差となり22分54秒、日本大が逆転。その後、松信のポストシュートで23対23となったが、此処で早稲田がセットOFに変えてからリズムが乱れ、5分間無得点の間、日本大が名嘉・村上・下田で4連取、決勝進出を決定付けた。



〈得点〉

日本大＝村上8点、下田6点、名嘉4点、橋本・中村各3点、他

早稲田＝前里7点、野村5点、松信4点、夏山3点、他

◇決勝戦（11月14日・函館市民体育館、審判員＝河合　哲・田中　潤）

日本体育大学　36（19－16、17－13）29　日本大学



開始早々31秒、東長濱のミドルが決まり、続いて小室、石川で4連取した日体大がペースを握り優位に展開、日本大も村上、下田、石井の得点で追うが、常に日体大がリードし前半を3点リードで終了。後半に入り、生川のポスト、棚原のミドル、藤本の速攻と多彩なOFで加点、日本大も12分18秒に橋本のサイドシュートで1点差まで詰め寄ったが、その直後、退場者を出して日体大友利、藤本に連取され3点差となった。22分22秒、小室の得点から3連取、更に24分48秒から3連取の日体大が、以後、日本大を3得点に押さえ勝利した。日体大の得点内訳を見ても6名が各5点とミドル、ポスト、速攻と多彩な攻撃でコンスタントな得点を物語っていた。また、甲斐（日体大）、川端（日本大）の両GKの好セービングもあり、盛り上がりのあるファイナルとなった。

〈得点〉

日体大＝棚原・生川・小室・東長濱・藤本・石川各5点、他

日本大＝下田8点、村上6点、石井6点、中村4点、橋本3点、他

■女子

◇準決勝戦第一試合（11月13日・函館市民体育館、審判員＝亀山耕司・水谷省一）

筑波大学　33（15－10、18－8）18　大阪教育大学



関東秋季優勝の筑波大と関西秋季優勝の大教大の注目の対戦となった。作内のミドルで筑波大が先行。筑波大は6分から13分13秒まで無得点に押さえられていたが、DFが頑張り5対3と凌ぎ、19分まで8対7と競った。その後は、石立の3連続得点、山下、石野、黒木などがコンスタントに加点、GK下地の

好守を背景にDFが頑張り、大教大の得点を岡本、若泉、石田の3点に押さえ15対10で折り返す。後半は開始早々作内の得点から9連続得点、その間、大教大を1点に押さえ、8分23秒で23対11と圧倒、その後もコンスタントに加点、準決勝戦としては33対18の大差で決勝戦進出を決めた。

〈得点〉

筑波大＝作内8点、山下・石立・小松各5点、石野3点、黒木・山野各2点、他

大教大＝大城・岡本各5点、石田4点、住野・若泉各2点

◇準決勝戦第二試合（11月13日・函館市民体育館、審判員＝黒木秀香・黒木龍二）

東京女子体育大学　32（16－13、16－14）27　武庫川女子大学

開始早々のエース稲葉のミドル、張のカットインで先行したが、9分から13分48秒の張の得点まで無得点の間に、武庫川が稲葉、藤長・荒木、坂部の得点で逆転6対5とした。その後、東女体大が張の好リードから立ち直り加点、武庫川も藤長・坂部などの得点で対抗したが、結局16対13と東女体大3点のリードで前半を終了。後半立ち上がり、東女体大は石井のミドル、国保のポストなどから、6分までに3連続得点で21対14とリードし優位に立ち、藤井のディスタンスや吉田のポストで、追いすがる武庫川を下して決勝進出を決めた。



2点共　写真提供：スポーツイベント社

〈得点〉

東女体大＝稲葉10点、石井7点、張6点、坂本3点、国保・澤田・中野各2点

武庫川大＝藤井6点、坂部5点、吉田、稲葉・藤長・荒木各3点、柴山・前田各2点

◇決勝戦（11月14日・函館市民体育館、審判員＝亀井耕司・水谷省一）

筑波大学　30（14－14、16－13）27　東京女子体育大学



安定した攻守を見せる筑波大と一戦毎に力をつけてきた東女体大の対戦となったが、昨年と同一対戦、通算すると13回目の筑波大と東女体大の決勝対決となった。

筑波大が作内のミドルで先行したが、東女体も直ぐに国保のポストで返し、15分まで一進一退で経過。17分06秒、中野の速攻で9対8と東女体がリードしたが、その後17分46秒小松が決めて同点とした筑波大が4連取し12対9とした。しかし、26分から東女体が4連取して前半をイーブンで終る。後半も前半同様に互角で推移したが、16分30秒に作内が決めて20対20をキッカケに、筑波大が4連取し23対20、24分には28対22として優位に立ち、結局は残り2分の東女体の攻撃を2点に押さえた筑波大が勝利をものにした。インカレ決勝での通算対戦を8勝5敗とした。

〈得点〉

筑波大＝作内9点、山下7点、石野6点、黒木4点、石立・小松各2点

東女体＝稲葉8点、中野6点、国保4点、石井3点、張2点、山崎・梅田・早川・澤田各1点

◇大会成績

男子

優勝	日本体育大学
2位	日本大学
3位	筑波大学
3位	早稲田大学

※日体大・日本大は、全日本学連推薦で全日本総合選手権大会出場。

※3位の筑波大・早稲田は、日本協会推薦で全日本総合選手権大会に出場

◇大会成績

女子

優勝	筑波大学
2位	東京女子体育大学
3位	大阪教育大学
3位	武庫川女子大学

※筑波大・東女体は全日本学連推薦で全日本総合選手権大会に出場

※3位の大阪教育大学は、日本協会推薦で全日本総合選手権大会へ出場

◇大会個人賞

男子の部

優秀選手賞

GK	甲斐　昭人	（日体大）
CP	友利　彬彦	（日体大）
CP	石川　　出	（日体大）
CP	下田　好孝	（日本大）
CP	村上　勝久	（日本大）
CP	銘苅　　淳	（筑波大）
CP	松信　亮平	（早稲田）

特別賞

GK	川端　将一	（日本大）
CP	前里　卓実	（早稲田）

優秀監督賞

松井　幸嗣（日本体育大学監督）

◇大会個人賞

女子の部

優秀選手賞

GK	下地ゆいの	（筑波大）
CP	石立真悠子	（筑波大）
CP	山下　詩穂	（筑波大）
CP	小松　史果	（筑波大）
CP	稲葉　由衣	（東女体）
CP	張　素　姫	（東女体）
CP	吉田　　薫	（武庫川）

特別賞

GK	表寺　由貴	（東女体）
CP	大城　夕貴	（大教大）

優秀監督賞

水上　　一（筑波大学監督）

2008 北京オリンピックアジア予選、再試合が決定

2007 年 9 月 1 日(土)～6 日(木)に、愛知県豊田市にて開催された「2008 北京オリンピック男子アジア予選愛知・豊田大会」において、「中東の笛」が問題となり、マスコミ各社にも大きく取り扱っていただきました。今般、日本ハンドボール協会は、同様に中東の笛に悩まされている韓国ハンドボール連盟と連携して、この対策について検討し、以下の議題を国際ハンドボール連盟の理事会に提案いたしました。

IHF 理事会提出議題（提案）

世界選手権・オリンピックに通じる大陸予選を、全て IHF の直接管理の下実施する。
テクニカルデリゲートを組織し、IHF が直接レフェリーを指名する。
—スポーツの公平性を追及し、アジアハンドボール現状を改善するために—

アジアハンドボール連盟主催の試合において、過去 10 数年にわたり不公平な運営がなされて来た。当初は男子代表の試合であったが、近年は女子の試合やジュニアの試合にも、そうした運営が及んで来ている。
本年 9 月日本の豊田市で行なわれた、北京オリンピックアジア地区予選でも、大勢のハンドボールを愛する若者の前で、露骨な、偏りのある笛が吹かれた。
不公平極まりないレフェリングは、若者達のハンドボール離れを招き、アジアにおけるハンドボールの発展に重大な影響を及ぼしている。
正にアジアにおけるハンドボールは未曾有の危機に直面していると言える。
我々の経験した AHF 主催大会における、アンフェア事例を紹介し、その実情を訴えると伴に以下の改善提案をおこなう。
世界選手権・オリンピックに通じる大陸予選を、全て IHF の直接管理の下実施する。
テクニカルデリゲートを組織し、IHF が直接レフェリーを指名する。
我々の本提案に対し、IHF では真摯に検討され、結論を出すことを要請する。
この提案が受け入れられない場合は、
世界選手権並びにオリンピックアジア予選を東西アジアに分けて、開催できるよう要望するものであり、更にはアジアハンドボール連盟を西アジアハンドボール連盟と東アジアハンドボール連盟に、分割することを認めるよう要望するものである。
更に我々は国際オリンピック委員会（IOC）へもアジアハンドボールの現状を訴え、善処を求めていくつもりだ。
フェアプレーの精神を浸透させ、オリンピックムーブメントの一層の推進を切に願うものであります。

日本ハンドボール協会　副会長　市原則之
韓国ハンドボール連盟　第 1 副会長　鄭　亨均

その結果、2007 年 12 月 17、18 日の IHF 理事会において、1 月末までに男女アジア予選のやり直しを IHF の管理下で開催すると決定されました。(2008 年 1 月 17 日現在)

男子代表監督決定！ 酒巻清治氏（トヨタ車体監督）

2008 年北京オリンピックアジア予選のやり直しが決定したものの、その後の進展は遅々として進んでいないが、来るべき予選に備え、男子日本代表監督決定も急務である。12 月 23 日、強化委員会、常務理事会において、トヨタ車体監督・酒巻清治氏が男子代表監督に決まった。

また、男子総監督には、蒲生晴明氏（日本協会強化本部長）が、ベルト・バウワー女子代表監督のサポート体制として女子総監督に西窪勝広氏（日本協会常務理事）の就任が決まった。

プロフィール

酒巻 清治（サカマキ　キヨハル）
生年月日：1962 年（昭和 37 年）5 月 7 日
出身大学：中京大学
経　　歴：1985 年　湧永製薬㈱入社
1996 年～ 2000 年 3 月　男子日本代表コーチ
2004 年　湧永製薬㈱退社　スウェーデンにてコーチ修業
2005 年　トヨタ車体ハンドボール部監督就任

ドクター・水素水 ——— 特殊セラミックTスティック

簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が 水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。

JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…



※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。



500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）



当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／18×122mm



価格／1箱3本入り 13,440円（税込み）



水の入ったペットボトルなどの容器に
スティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ１本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
１日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。

株式会社フレンディア

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-7 丸栄ビル6F
TEL：03-5728-3360 FAX：03-5728-3363
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.friendear.co.jp

～ランクアップは今だ！～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

「北京オリンピック・アジア予選を再試合することに決定した」ー。昨冬、ＩＨＦ理事会が下した驚愕のニュースが飛び込んできた。

日韓両国が連名で理事会に提案した中東の審判員による不可解な判定、いわゆる「中東の笛」問題に関してＩＨＦは再試合を決めたのだ。しかも、ＩＨＦの管理下で実施するというものであった。

これまで十数年にわたりＡＨＦによって泣かされてきた問題が、ようやく正常化に動いたことは、東アジア諸国、とりわけ日本、韓国、中国などにとっては大歓迎されるものである。

ＩＨＦへの提案は、豊田市での男子予選の最中から話し合われてきたが、かなり強い調子で訴えている。オリンピックはもとより世界選手権などの大陸予選をすべてＩＨＦの管理下におき、レフェリーはＩＨＦが直接指名するとしている。

また、提案を受け入れない場合は、予選を東西に分けて実施、またはＡＨＦを東西に分割を求めるとまで要望している。

さらにはＩＯＣ（国際オリンピック委員会）にも現状を訴え、善処を求めていくと締めくくっている。

こうした韓国と共同戦線を張った強い訴えがようやく実を結んだと言える。

過去においては1975年、イスラエルを日本に迎えて女子のモントリオール・オリンピック予選を非公開試合にしたことはあったが、再試合は前代未聞である。今後、中東勢の反発は必至。本当に「中東の笛」はなくなるのか。次の展開を待ちたいが、やっと重い腰を上げたＩＨＦにも、このままでは「五輪から外される」危機感が作用したとも思われる。決断を下した以上、全責任を持ってＡＨＦを注視していく必要があるのは当然である。あいまいであれば、再び同じことが繰り返される危険性は潜んでいるからだ。

ところで、この話題は大きなニュースとしてメディアが取り上げ、ワイドショーにも連日のように登場するなど、過去にこれほど注目を集めたことはなかった。五輪から遠のき、注目度がまた低下した時点での前代未聞の出来事。ハンドボールという競技の知名度アップにはまたとないチャンス。ハンドボールを前面に押し出す絶好の機会。ムードをあおり、マイナーからメジャーへのランクアップに全精力を上げたい。今がその最高の時期である。97年の熊本の二の舞いは踏みたくない。

2007 NTS センタートレーニング報告

NTSコーディネーター　岡本　大

2007年度NTSセンタートレーニングが年明けの1月4日から6日までの3日間にわたり、**中部大学体育館（愛知県）**にて開催されました。各ブロックから推薦された高校生（U－18）＆中学生（U－15）男女各30名の選手が集まり、世界を相手に戦うという視点のもと、強化委員・ナショナルスタッフ・情報科学委員・指導委員の指導スタッフによりコーチングがなされ、充実した内容で開催されました。また、中部大学ハンドボール部員には運営やトレーニングにおいて大変お世話になりました。

1．参加者

高校男子31名、高校女子30名、中学男子33名、中学女子31名、引率指導者31名
ナショナルスタッフチームほか35名、合計191名

2．全体スケジュール

＜中学生・U－15＞

1月4日　14：00～開始式、14：15～体力測定、15：15～ＯＦトレーニングⅠ
　　　　18：00～夕食、20：00～知的スキル
1月5日　9：00～ＧＫトレーニング、9：45～ＤＦ・ＦＢトレーニング
　　　　10：15～ＯＦトレーニングⅡ、11：00～ゲーム、12：30～終了式

＜高校生・U－18＞

1月5日　14：00～開始式、14：15～体力測定、15：15～ＯＦトレーニングⅠ
　　　　18：00～夕食、20：00～知的スキル
1月6日　9：00～ＧＫトレーニング、9：45～ＤＦ・ＦＢトレーニング
　　　　10：15～ＯＦトレーニングⅡ、11：00～ゲーム、12：30～終了式


全体の風景


トレーニングの様子


知的トレーニングの様子

3．トレーニング内容

(1) OFトレーニングⅠ

＜コンパクトスウィングの獲得＞
①寝そべりパス　②3回スウィング対人パス　③3回スウィングサイドハンドパス
＜シュート＞
①クイックシュート　②サイドハンドシュート

(2) OFトレーニングⅡ

＜ずれの創造からクイックシュートの獲得＞
①1対1ステップバック片道からシュート　②1対1ステップバック往復からシュート
＜実践でのずれの活用＞
①2対1ステップバックから　②3対2ステップバックから　③4対3ステップバックから

(3) DF・FBトレーニング

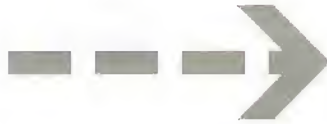
＜基本的ＤＦフットワークから速攻の運び＞
①ドリブルチェイス　②追いかけ1対1　③追いかけ1対1＋コンタクト
④追いかけ1対1＋シュートまで　⑤追いかけ1対1＋ロングシュートブロック
⑥フットワークからランパス（ショート・ミドル・ロング）　⑦前後シュートブロック　⑧3人の合わせ

(4) GKトレーニング

＜ポジショニングの意識の徹底＞
①構え（面つくり）　②準備としてのポジショニング
③実践トレーニング（ロング・サイド・ポストそれぞれに対する正しい判断）

呼吸する建築





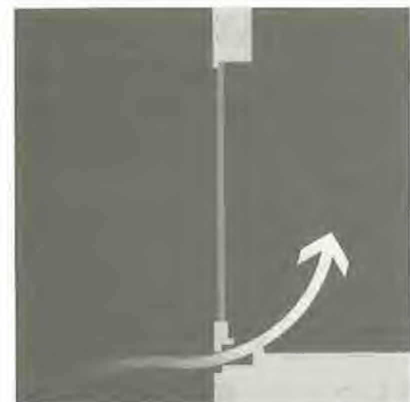


Swindow ● スウィンドウ

わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。







Wincon ● ウィンコン

内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon ● キャブコン

内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL（03）5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/



ヤングレフェリー育成プロジェクトについて
～「育て、未来の名審判」

日本協会審判部ヤングレフェリー育成担当　小友 正人（岩手県ハンドボール協会ヤングレフェリー班）

はじめに

平成18年1月の審判部合同委員会、同4月の都道府県審判長会議を経て検討を重ね、昨年度から実施している標記事業について報告します。昨年11月大阪で開催された全国審判研修会で岩手におけるモデルケースをもとに経過報告した際、仮公認（グリーン）ワッペンを参加者（秋田、茨城、愛知、岐阜、奈良、京都、福井、香川、山口、福岡、大分、熊本）へ、合計50枚配布して実践していただくように伝達させていただきました。その後、各都道府県の進捗状況はいかがでしょうか？

都道府県・ブロックの積極的な取り組みなくして、この事業の前進、目的達成は不可能です。日本から若い国際レフェリーを誕生させ、各カテゴリーの世界選手権に参加できるようにレフェリーを育てることが強化事業にも好影響を及ぼし、やがてオリンピックに日の丸のユニホームが登場することに繋がるものと確信します。

この報告をたたき台として実践に役立てていただければ幸いに存じます。希望をもって笛を手にする若者たちに夢を持たせ、未来を担うヤングレフェリーを育てるために、どうぞ皆様方の一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

ヤングレフェリー育成プロジェクトの具体的な進め方



1．都道府県協会
（1）育成体制の整備（要項、育成担当者等の策定）と広報（募集）。
（2）計画的な講習会の企画。
（3）日本協会審判部担当者への報告。
（4）基準をクリアした受講者に仮公認ワッペンを貸与し、各種大会で吹笛の機会を与える。
（5）優秀者をブロック審判長に推薦する。

2．ブロック協会
（1）育成体制の整備（要項、育成担当者等の策定）。
（2）計画的な講習会の企画（都道府県審判長から推薦された場合）。
（3）日本協会審判部担当者への報告。
（4）NTSブロックトレーニングを育成の場にする。
（5）力量に応じて各種大会で吹笛の機会を与え、優秀者をJHAレフェリーコースに推薦する。

3．日本協会審判部
（1）要項・申込書・ルール入門書・研修の手引き・指示及び報告文書を都道府県ブロック審判長へ送付。
（2）日本協会仮公認ワッペンの作成。
（3）NTSブロックおよびセンタートレーニングとの連携。
（4）審判部審査指導委員会・ルール研究委員会・国際委員会との連携。
（5）上記事項実施に係る経費の計上。

2006岩手ヤングレフェリー育成プロジェクト展開事例（2006.11月全国審判研修会資料の抜粋）

3月：島田房二審判部長より要請を受け、小友正人（日本協会審判部担当）、田村登（東北ブロック審判長）、中島昭博（東北高体連審判長）、上飯坂徹（県中体連審判長）、佐藤睦朗（前県高体連委員長）、中舘豊（トップレフェリー）の6名で検討会を開き草案を作成。県協会常務理事会へ提案し、県協会審判部を中心とした協力体制を確認し、ホームページ、広報、大会プログラム等で告知した。

4月～5月：県高体連専門部常任委員会、中体連専門部会議にて提示。

6月：県高総体顧問会議にて各校へ案内。
6月末の申込締切りに男子高校生5名、女子高校生1名、男子中学生1名の合計7名が応募。

7月：県中体連専門部会にて各校へ案内。（※下線は、実施した講習会）
①県民体時講習：講義［レフェリーの方法について］
②同上：試合見学［控え審判とオフィシャルの方法について］
③県中総体時講習：オフィシャル実習［ルールについてパートⅠ］

8月：④高校生合宿時講習：攻防練習における実習［ルールについてパートⅡ］

9月：⑤日本リーグ盛岡大会時講習：小学生前座試合での実践［実技レベルⅠ］

10月～11月：県中学校新人大会、高校新人大会の見学による自主研修

12月：⑥県総合選手権大会時講習：小学生交流試合での実習［実技レベルⅡ］、基本的ルールのペーパーテスト

1月：⑦県中学校1年生大会時研修：上記合格者に「グリーンワッペン」貸与⇒初の公式試合での実践

3月：16歳以上の受講生は、D級申請して公認審判員資格を取得

【他の関連配布資料】
①要項　②ルール入門書　③基本的なルールテスト　④講習カード　⑤募集ポスター
⑥日本サッカー界の審判育成について（下記参照）
⑦ドイツWCサッカーで活躍した川上審判員による記事「世界のトップレベルの人々と接して実感～意外に『世界は遠くない』」（(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会機関誌ENJOY　Vol.5）
⑧欧州ハンドボール連盟ヤングレフェリー育成プロジェクト事情（下記参照）
⑨スポーツイベントハンドボール「2006.11月号P.23」関連掲載記事


岩手日報　2007年（平成19年）6月17日（日曜日）

ハンドボール

審判は女子高生

盛岡北高の西郷さん

公式戦、父とコートに

「夢は国際レフェリー」

岩手日報（2007年6月17日朝刊）より転載

2006受講生（第1期生）の動機と感想

◎西郷 優さん（新聞記事参照：当時、盛岡北高校女子1年、中学校1～3年までハンドボール部所属）

・動機：「高校ではハンドボール部がないため国際理解同好会に所属していますが、やっぱりハンドボールが大好きで、これからもハンドボールに関わっていきたいので申込みました。父からレフェリーシャツをもらいました。」

・感想：「資格を得てから、私は弟（中学生）の大会や高校の練習試合などに出かけて、できるだけたくさん笛を吹けるように努力しています。ハンドボールは相手に触れていいスポーツなので、オフェンスとディフェンスとの接触場面で判定するのがとても難しいです。でもそこがハンドボールの醍醐味だとも思っています。プレーヤーの良さを引き出してあげられるように、まず今はひたすら練習していこうと思っています。」

◎他の受講者の動機

「生涯ハンドボールと関わりを持っていたいから」

「ハンドボールについて勉強したかったから」

「ハンドボールが大好きで、プレーだけでなくコーチ・レフェリーにも興味があるから」

「レフェリーとしてジャッジできるようになるまでどのくらいの年月がかかるか知りたかったから」

サッカーと先進国のヤングレフェリー育成に関する事例

◎日本サッカー協会審判部レフェリー・チーフ・インストラクター小幡真一郎氏への取材（2006.6.15）

・プロ審判員（川上徹氏を含めて6名）の多くは、ライフワークとしての審判活動である。

・中学生や高校生を含んだジュニアユース（中学生年代）、ユース（高校生年代）審判員の育成が日本サッカー界の発展にとって大きなポイントである。

・優待制度：JFA登録料1,500円（割安）、笛・カード・競技規則など審判用具の無償提供、講習会の開催

・2006年度5月現在登録審判員数＝全国でジュニアユース約3,600人、ユース約12,500人

・各都道府県のそれぞれのそれ以下の年代を担当できる。同年代なら副審を担当できる。

・優秀者は各都道府県の審判委員会の許可と指導を得て各ブロックのゲームを担当できる。

・海外の各クラブでは高校生ぐらいからプレーをやりながら審判活動をしているケースが多い（土曜日はプレーヤー、日曜日はレフェリー）。テレビに映るトップレフェリーが指導や講習会を担当している。日本でもドイツワールドカップで活躍した川上氏に講習会で審判の魅力、面白さを語ってもらっている。トップリーグ連携機構の事業にて、異種競技のトップレフェリー講習会も実施している。

・メディアを活用して、審判の面白さや難しさ、ルールの解釈などの広報活動に努力している。

・審判がゲーム中に罵声を受けたり、メディアに責められたりする現状もあったが…
→チーム、クラブの指導者の捉え方が大きな影響を及ぼす。レフェリーはゲームにとって重要な存在であり「レフェー：委ねている」という意識があるかどうか！日頃から、馬鹿にしたり、批判ばかりしている指導者のもとには審判員を目指す人材が出るのは難しい。理解者を増やすことも大事なことである。

◎ヨーロッパ事情

・ユース大会にヤングレフェリーを派遣し、レフェリーコーチを帯同させて育成している。

・プレーヤーからのフィードバック体制が確立されていて、審判育成を大切な仕事と捉えている。
《詳細は、「EHFヤングレフェリーによる印象」（柏葉公平氏訳：ライルドウル編集長）とその要約編「ヤングレフェリー成功のカギ」（安倍冨士男氏訳：リトルハンド管理人）【情報提供：Hand in Handball! 管理人】参照⇒岩手ハンドボール応援ページ「トピック」に掲載》

今後の課題

◎育成体制の整備

・ルール入門書、手引書、講習カード等
配布物と育成方法（指導マニュアル）の充実及び育成担当者の組織化。

・募集方法と経費、広報等の検討。

・先進国やサッカーなど他競技の情報収集と研究。

◎ヤングレフェリーの研修機会の提供

・小学生大会、中学校新人大会＆1年生大会、高校新人大会＆1年生大会など

・ブロック大会への派遣

◎各都道府県・ブロックの実践の積み上げとネットワークの確立による情報の共有

※東北ブロックでは、11/23～24 東北マスターズ大会（小学生交流大会を含む）に岩手と福島からヤングレフェリーを派遣するほか、今後、山形で開催されるチェリーカップ、大沼杯等への派遣を検討中！



グリーンワッペンの福島東高と福島工業高の５人＆
イエローワッペンの盛岡業業高と盛岡大附属高の２人
（昨年度受講生：グリーンワッペン取得後にＤ級取得）

～写真及び情報提供～

☆「岩手日報社」
☆「岩手ハンドボール応援ページ」
http://homepage3.nifty.com/iwate-handball/index.htm
☆「リトルハンド」盛岡スポーツ少年団ホームページ
http://abe.ihatov.jp/handball/top.htm
☆「ライルドウル」花巻ハンドボール広報紙
☆「Hand in Handball!」http://handinhandball.seesaa.net/

日本協会審判部ヤングレフェリー担当：
中島昭博（なかしまあきひろ）
花巻北高等学校　〒025-0061 花巻市本館 54
TEL　0198-23-4134　FAX 0198-24-4128
MAIL　hand-nakaji1960@hkn-h.iwate-ed.jp

募集 YRP

～日本ハンドボール協会ヤングレフェリー育成プロジェクト～

☆☆☆レフェリーでも世界をめざそう！☆☆☆

中学校2年～高校3年生までの
ハンドボール大好きな人　集まれ！！！

【受付期間】　平成１９年４月１日（日）～平成１９年６月３０日（土）
【問合せ先】　盛岡市立北陵中学校　上柳坂 徹　勤務先 TEL 019-684-3323　携帯 090-4638-2473
花巻北高等学校　中島 昭博　勤務先 TEL 0198-23-4134　携帯 090-5189-8564
【育成方法】 a．申込書には、競技規則入門書と育成プログラムを配布する。
b．年間6回以上、講習会に参加し、育成担当者の指導を受ける。
c．育成担当者：
〔中学校〕　〔高　校〕　中島昭博（花巻北高等学校）

35 歳まで　オリンピック・世界選手権　←　国際レフェリー
23 歳まで　世界ユース・ジュニア選手権　←　エイオンジ (大陸) レフェリー
アジア大会
19～21 歳　全国高校総体・選抜大会　全国中学校総体・中学生選手権大会　←　A級・B級　ベストレフェリー
17～18 歳　ブロック大会（高校選手権・選抜予選、中学校・JOC予選、小学生大会）　←　C級
14～16 歳　岩手県大会（中・高・社会人リーグなど）　盛岡市民体育大会、県職選手権大会など　←　D級　16才以上の優秀者　←　ワッペン

申込書は、問い合わせ先から取り寄せるか、下記ホームページからダウンロードして下さい
岩手ハンドボール応援ページ　http://homepage3.nifty.com/iwate-handball/index.htm

お詫びと訂正

前号（№ 486）11 頁の表１、表２及び 12 頁の図３に誤りがございました。
関係の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正させて頂きます。

※ 12 頁・図３中の「日本得点（全 121 点）」は、正しくは「日本失点（全 59 点）」です。お詫びして訂正させて頂きます。
※ 11 頁の表１、表２につきましては、改めて正しい表を下記に掲載させていただきます。

表１．定量データ（日本戦４試合）

	合計（4 ゲーム）				1 ゲーム平均			
	日本		対戦国		日本		対戦国	
攻撃回数	247		247		62		62	
得点	121		112		30		28	
攻撃成功率	49%		45%		49%		45%	
シュート	得点	本数	得点	本数	得点	本数	得点	本数
全シュート	121	209	112	201	30	52	28	50
シュート到達率	74%		68%		74%		68%	
シュート成功率	58%		56%		58%		56%	
ミス本数	58		62		15		16	
ミス発生率	23%		25%		23%		25%	
DF 成功率	119	199	109	205	30	50	27	51
（セット 6vs6）	60%		53%		60%		53%	
DF 成功率	19	39	15	19	5	10	4	5
（セット 6vs5）	49%		79%		49%		79%	
OF 成功率	17	40	13	21	4	10	3	5
（セット 6vs5）	43%		62%		43%		62%	
相手シュート（枠内）	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数
全相手シュート（枠内）	55	166	64	185	14	42	16	46
GK 阻止率	33%		35%		33%		35%	

表２．定量データ（vsKUW・KOR）

	合計（2 ゲーム）				1 ゲーム平均			
	日本（負）		対戦国（勝）		日本（負）		対戦国（勝）	
攻撃回数	117		117		59		59	
得点	52		59		26		30	
攻撃成功率	44%		50%		44%		50%	
シュート	得点	本数	得点	本数	得点	本数	得点	本数
全シュート	52	101	59	94	26	51	30	47
シュート到達率	74%		70%		74%		70%	
シュート成功率	51%		63%		51%		63%	
ミス本数	29		27		15		14	
ミス発生率	25%		23%		25%		23%	
DF 成功率	55	106	66	112	28	53	33	56
（セット 6vs6）	52%		59%		52%		59%	
DF 成功率	3	4	8	11	2	2	4	6
（セット 6vs5）	75%		73%		75%		73%	
OF 成功率	3	6	7	10	2	3	4	5
（セット 6vs5）	50%		70%		50%		70%	
相手シュート（枠内）	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数
全相手シュート（枠内）	21	82	36	88	11	41	18	44
GK 阻止率	26%		41%		26%		41%	

FB・・・ファーストブレイク、SS・・・サイドシュート、PS・・・ポストシュート
BT・・・ブレイクスルー、7MT・・・7m スロー、DS・・・ディスタンスシュート

大学男子ハンドボール選手の試合時における尿所見と水分摂取の実態

木野　実（環太平洋大学）・柳田美子（順天堂大学スポーツ健康科学部）・宍戸聖規・矢野愛・吉田映梨子（赤堀栄養専門学校）・貝沼圭吾・坂本静男・西山逸成（医事専門委員会）

Ⅰ．はじめに

競技スポーツ選手が目的とするところは、試合に勝つことである。そのためにも日常の健康管理をおろそかにしては競技力を十分に発揮することはできない。とくに試合時には精神的な緊張も高まり身体への影響も大きい。そこで、今回は試合時における身体への影響を尿検査と水分摂取量の実態からあきらかにしたい。

Ⅱ．方法

調査対象者は神奈川県下の某大学男子ハンドボール部の選手21名である。調査時期・場所は、2007年11月に横須賀市M体育館における公式ハンドボールの試合時である。対象者21人は、Aチーム（９名）午前中、Bチーム（12名）は午後の試合参加者でそれぞれおよそ１時間の試合をおこなったものである。

測定方法および項目は次の通りである。

①尿検査：試合前後に栄養調査員によりウロペーパーⅢ‘栄研’８S試験紙を用いて実施した。検査項目はウロビリノーゲン、潜血、ビリルビン、ケトン体、ブドウ糖、タンパク質、PH、比重である。

②体重測定：試合前後に脱衣状態で測定した。

③飲料水摂取状況：市販のスポーツドリンク（ポカリスエット粉末）を水で二倍に希釈したものを各人に1000mlを準備し、試合前半、後半毎に飲水量を聞き取り調査した。

Ⅲ．　結果および考察

１．尿所見について

試合前後の尿検査の結果を表１に示した。紙面の都合上、ここでは尿タンパク・尿比重を中心に述べたい。

尿タンパクは、試合前ではBチームの２人に±といった擬陽性がみられた。試合後では１人を除いた全員（95%）に擬陽性以上の尿タンパク陽性がみられた。尿タンパクの出現率は安東らの報告によれば、アメリカンフットボールの男子における試合時には、51%であった。本調では95%と高い陽性率であった。運動後の尿タンパクの出現は運動強度と運動量に比例するが運動の種類や訓練度にも左右されるといわれている。

運動時には筋肉・肺・心への血液分配率が高まり、また、交感神経の高まりなど、多くの因子が試合時の腎臓への血流の低下などに関与している。一方、糸球体濾過率は運動により上昇する。このように運動時にも濾過機能を保とうとする腎の働きが過剰に応答した場合、運動性タンパク尿の一因になる。本対象者は、後述するように概略的であるが43%の者が必要な水分摂取ができていないことと激しい運動により一過性にタンパク尿が見られたものと考えられる。

２．試合後の体重減少率とタンパク尿との関連

試合後の体重の減少は表２に示す通り、Aチームは400g、

表１－１　試合前後における個別尿検査結果

Aチーム（午前中試合実施チーム）

対象者	ウロビリノーゲン		ブドウ糖	タンパク　mg/dl		P H		PH差	比重		比重差
	試合前	試合後	試合後	試合前	試合後	試合前	試合後		試合前	試合後	
A	正常	正常	−	−	15（±）	7	6	−1	1.020	1.020	0.000
B	正常	正常	−	−	100（++）	6	6	0	1.005	1.010	0.005
C	正常	正常	−	−	300（+++）	6	6	0	1.020	1.025	0.005
D	+	正常	−	−	100（++）	8	6	−2	1.025	1.025	0.000
E	正常	正常	±	−	100（++）	7	6	−1	1.015	1.025	0.001
F	正常	正常	−	−	30（+）	8	7	−1	1.010	1.005	-0.005
G	+	正常	−	−	100（++）	8	7	−1	1.025	1.025	0.000
H	+	+	±	−	100（++）	6	6	0	1.025	1.030	0.005
I	+	正常	−	−	100（++）	6	6	0	1.020	1.030	0.010

表１－２　試合前後における個別尿検査結果

Bチーム（午後試合実施チーム）

対象者	ウロビリノーゲン		ブドウ糖	タンパク　mg/dl		P H		PH差	比重		比重差
	試合前	試合後	試合後	試合前	試合後	試合前	試合後		試合前	試合後	
J	正常	正常	−	−	−	8	8	0	1.025	1.025	0
K	正常	正常	−	−	30（+）	5	6	1	1.025	1.025	0
L	正常	+	−	−	15（±）	7	7	0	1.01	1.025	0.015
M	正常	+	±	−	100（++）	8	7	−1	1.03	1.03	0
N	正常	+	−	−	15（±）	8	7	−1	1.025	1.025	0
O	正常	正常	−	−	100（++）	8	7	−1	1.03	1.03	0
P	+	+	−	−	30（+）	6	6	0	1.025	1.03	0.005
Q	正常	正常	−	−	30（+）	7	6	−1	1.03	1.025	0.005
R	++	+	±	15（±）	100（++）	7	6	0	1.03	1.03	0
S	正常	正常	−	−	15（±）	5	6	1	1.025	1.03	0.005
T	正常	正常	−	15（±）	100（++）	6	6	0	1.02	1.025	0.005
U	正常	正常	−	−	30（+）	6	6	0	1.025	1.025	0

※潜血、ビリルビン、ケトンは変化が見られなかった
ブドウ糖は試合前では全選手、−であった。

Bチームは平均200gの減少がみられた。これを体重比でみると全体で平均0.5％の減少率であった。

この体重の減少率とタンパク尿の出現率との関連をみると図1に示すとおりであった。即ち、水分の摂取を考慮せずに体重の減少率のみでタンパク尿との関連をみたものであるが、体重減少率が多い者にタンパク尿の強陽性者が多かった。

3．尿タンパクと尿比重との関連

尿比重は尿の濃度を示す指標であるが、その濃度に影響を与えるものとしては水分量のほかに、糖、蛋白などがある。本調査においても図2に示すように、尿比重が高い者に尿タンパク強陽性が多かった。

表2－1　試合前後における個別推定水分摂取量と発汗量

Aチーム（午前中試合実施チーム）

対象者	体重 kg		試合前後	体重の	水分摂取量 ml			発汗量 ml	理想水分	発汗率	水分摂取
	試合前	試合後	体重差 kg	減少率	合計量	試合前半	試合後半		摂取量 ml	(%)	量評価(%)
A	73.9	73.5	-0.4	-0.54	700	400	300	1100	825	1.48	85
B	66.9	66.4	-0.5	-0.75	500	0	500	1000	750	1.49	67
C	73.5	72.7	-0.8	-1.09	1100	600	500	1900	1425	2.58	77
D	60.1	59.0	-1.1	-1.83	450	250	200	1550	1163	2.57	39
E	71.0	70.5	-0.5	-0.70	900	200	700	1400	1050	1.97	86
F	59.0	59.0	0	0.00	1150	750	400	1150	863	1.94	133
G	66.1	65.9	-0.2	-0.30	600	200	400	800	600	1.21	100
H	71.9	71.9	0	0.00	1400	500	900	1400	1050	1.94	133
I	59.5	59.3	-0.2	-0.34	800	400	400	1000	750	1.68	107
平均	66.9	66.5	-0.4	-0.62	844	367	478	1256	942	1.87	92
標準偏差	6.1	6.1	0.4	0.58	322	230	211	339	254	0.47	31

表2－2　試合前後における個別推定水分摂取量と発汗量

Bチーム（午後試合実施チーム）

対象者	体重 kg		試合前後	体重の	水分摂取量 ml			発汗量 ml	理想水分	発汗率	水分摂取
	試合前	試合後	体重差 kg	減少率	合計量	試合前半	試合後半		摂取量 ml	(%)	量評価(%)
J	60.0	60.2	0.2	0.33	500	100	400	300	225	0.50	222
K	63.0	62.8	-0.2	-0.32	200	100	100	400	300	0.63	67
L	74.8	74.1	-0.7	-0.94	150	150	0	850	638	1.14	24
M	59.1	58.6	-0.5	-0.85	1000	500	500	1001	751	0.17	133
N	66.4	65.9	-0.5	-0.75	950	500	450	1450	1088	2.18	87
O	70.6	70.4	-0.2	-0.28	950	350	600	1500	1125	2.12	84
P	71.1	71.2	0.1	0.14	1500	500	100	1400	1050	1.97	143
Q	66.4	66.4	0.0	0.00	700	100	600	700	525	1.05	133
R	73.9	73.7	-0.2	-0.27	1000	500	500	1200	900	1.62	111
S	76.4	76.3	-0.1	-0.13	1500	500	1000	1600	1200	2.09	125
T	58.0	57.9	-0.1	-0.17	600	100	500	700	525	1.21	114
U	64.4	64.4	0.0	0.00	700	200	500	700	525	1.09	133
平均	67.0	66.8	-0.2	-0.27	813	300	438	983	738	1.32	115
標準偏差	6.3	6.3	0.3	0.40	430	189	271	442	332	0.68	48

注）1）発汗量：運動前の体重－運動後の体重＋水分摂取計で算出した。
2）理想水分摂取量：発汗量の75％（70～80％）で算出した（ムイスリ出版・スポーツ栄養の本［第二版］による）
3）発汗率：発汗量÷体重（試合前体重）を用いて発汗率を算出した。
（発汗量は体重の2％を超えるとパフォーマンスレベルの低下・脱水症状が起きると言われている）
4）水分量の評価：水分摂取量÷理想水分量

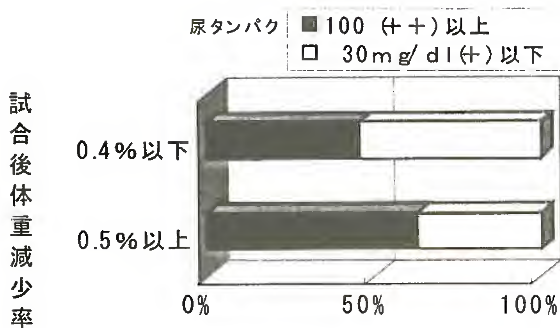


図1　試合後の体重減少率と尿タンパク

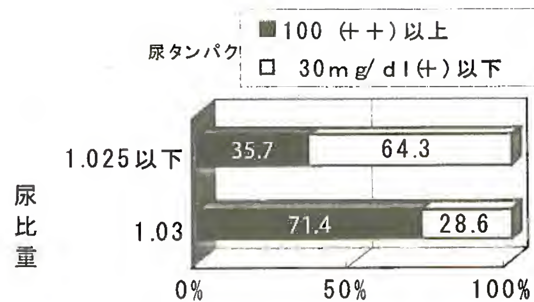


図2　尿タンパク質と尿比重との関連

人体は尿量を変動させることで、体内水分量を維持し、その結果、尿比重に変化が生まれる。糖や蛋白などの影響を受けるために、単純に尿比重のみでは体内水分量を厳密に推測することは難しいものの、一つの指標にはなりうると考えられる。

4. 水分摂取量について

表2に水分摂取量について示した。A,B チームとも1時間の試合でおよそ 800ml の水分を飲水していた。理想的な水分摂取量は、発汗量に対する水分摂取量を 100% 満たしていることである。本調査では 21 人中 12 人（57%）が理想的な水分摂取量を飲水していたが、43% の者は不足傾向にあった。

一般的には試合前は 250 ～ 500ml、試合中の水分補給は発汗量（体重の減少量）の 70 ～ 80％を補給すればよいとされている。体重の 2%の発汗によりパフォーマンスレベルの低下が見られるとされている。本調査で２％を超していたのは５人であった。このうち水分補給が十分であった者は１人であった。このような事からも水分摂取状況は望ましいものではないことがうかがえる。

先に筆者らによって報告した女子ハンドボール選手のスポーツ時における水分摂取調査では、水分摂取をこまめに行なっていた者は、練習後の乳酸値の低い者が多かった。一般にコップ半分の水 100ml が体内に吸収されるまでには 15 ～ 20 分かかると言われているので、15 分に１回程度とこまめにとることが大切である。

今回の水分調査は前半・後半のみのであったため、回数として何度、水分補給をしていたのかは把握していなかったが、観察によると、選手たちは休憩時のみ水分補給をするだけであった。理想水分に達していても『こまめに､少量ずつ』ではなく、一回で水分を多く流し込むような水分補給をしていたため、うまく体内に吸収されていなかったと考えられる。また、選手たちが普段使用しているボトルは透明ではなく、中身を確認できるものではなかった。

Ⅳ. まとめ

大学男子のハンドボール公式試合における身体への影響を尿検査を中心に調査した結果、次のことがあきらかになった。

尿タンパクは試合前には、21 人中２人に擬陽性がみられたが､試合後は１人を除く全員が擬陽性以上という結果であった。これは激しいスポーツによる一過性の運動性タンパク尿で問題になることは稀であるが、定期的な尿検査により腎機能のチェックをしておくことが望まれる。

タンパク尿と水分摂取量との関連はみられなかったが、試合後、体重減少率の高い者は強タンパク尿や尿比重の高い者が多い傾向にあったことから、適性な水分量はもちろんのこと、頻回の水分摂取方法により吸収率の向上に留意する必要がある。また、スポーツを行なう場合は、選手自身が水分摂取をコントロールしやすいような環境作り・雰囲気作りを、提供することが肝要である。



Ⅴ. 参考文献

1）渡辺　剛：対話形式でよく分かるスポーツ栄養の本［第二版、ムイスリ出版株式会社　2007

2）（財）日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会：アスリートのための栄養・食事ガイド　2001

3)　柳田美子、緒方嗣雄、西山逸成：ハンドボール選手の栄養と水分摂取　―女子ハンドボールチームの実態を通して―、ハンドボール５、（財）日本ハンドボール協会、2007

4）安東明夫、腰智聡、他：腎・電解質への影響、佐藤祐造編、からだの科学増刊、日本評論社、1995

伊藤超短波株式会社

財団法人日本ハンドボール協会オフィシャルサプライヤー（物理療法部門）

第59回全日本総合ハンドボール選手権大会 ケア＆コンディショニングサポート報告



伊藤超短波株式会社（いとうちょうたんぱかぶしきがいしゃ）

創業は、いまから1世紀近く遡った大正５年(１９１６年)。国内初の交流レントゲン装置の開発から歴史は始まった。当時から生活習慣病の増加を予見し、今で言うセルフメディケーションの重要性をいち早く提唱。超短波治療器、超音波治療器、レーザー治療器、骨融合治療器、電流筋肉刺激装置など日本で初めて開発。近年、社会に高齢化とともに、物理療法の有効性と可能性にますます期待が寄せられている。創業１００周年へ向けさらなる信頼の確立に向け、技術革新に挑み続ける。

現在、伊藤超短波株式会社は財団法人日本ハンドボール協会のオフィシャルサプライヤー（物理療法部門）として全日本チームの参加する大会及び強化合宿に器具とスタッフを派遣し、選手のコンディショニングサポートに努める。競技力向上と発展を願い医療とスポーツの分野で培った経験をベースに、ハンドボール競技を応援している。

『第59回全日本総合ハンドボール選手権大会』に『ケア＆コンディショニングブース』を設置！！

スーパープレーを見せるスポーツ選手たち。つねに最高のコンディショニングを保ち、怪我をした場合はより早くベストな状態へ回復する事が、選手の大きな課題である。もっといえば、試合が始まる“その時”をいかにベストの状態で試合へ望めるかだ。日々のハードなトレーニングからも慢性的に疲労を蓄積している。その疲労を蓄積したままトレーニング、試合を続けると取り返しのつかないケガの原因となる。また、軽度の痛みをそのままにすると無意識のうちに痛みのある部分を庇い他部位のケガへと連鎖したり、最悪な状況は体全体のバランスを崩しシュート、パス、ステップ等の各関連動作までをも狂わせ最高のパフォーマンスを発揮できなくなる。
日々の努力を意味のあるものする為にも日々のコンディショニングがとても重要となってくる。

『コンディショニングブースの風景』



今回用意した器機の種類は、コンビネーション刺激装置ＥＵ－９４０を２台、総合電流刺激装置ＥＳ－５２０を２台、２周波超音波治療器ＵＳ－７５０を２台、極低温療法クライオ５を２台、低周波治療器トリオ３００を２台の総額１５００万円分の機材を用意した。何れの器機も全日本チームのコンディショニングで使用されている物と同じ器機だ。

伊藤超短波は、（財）全日本柔道連盟、（財）日本陸上競技連盟とのオフィシャルサプライヤー（物理療法部門）としてパートナーシップを結んでいる他、サッカー、レスリング、ラグビー、ソフトボールなどの様々な世界大会での勝利を目指すスポーツチームをサポートしている。

『ブースに訪れた選手、関係者の皆さん』







大崎電気　中川選手

超音波とハイボルテージのコンビネーション治療の効果はすごいですね。ストレッチや手でほぐれない奥の方が柔らかくなります。チームでも超音波を使っているんですけど、いつもボクが独占してますよっ！

トヨタ車体　野村選手

山本トレーナーに勧められて低周波治療器トリオ３００を個人購入したんですけど毎日、微弱電流モードを利用しています。やるのと、やらないのとでは全く体調が違うんです。これが無かったら現役続けられていなかったかもしれませんねっ。

家永レフリー
福島レフリー

１試合６キロ前後は走るんですけど、試合後は足がパンパンでしゃがめないんです。帰りの駅の階段が上れなくていつも渋滞を招くんですよ（笑）でも、こちらで超音波と電気（ハイボルテージ）でケアしてもらうと試合直後でもしゃがめるし、帰りの階段もスイスイ～。なんと言っても朝起きたときの疲労感が無いのが驚きました。







大崎電気　浦和選手

試合後、腫れあがった膝は痛くてまともに歩けない状況でしたが。低周波治療器トリオ３００の微弱電流５時間モードを移動中、寝ている時も続けて半日間通電。翌日には普通に歩けるまでに回復しました。









選手はプレーを通じて多くの感動を観る人に与える。感動を与えるプレーをするためには常に最高のコンディションが求められている。
そんな選手の皆様に貢献できるように今後も、ハンドボール競技を積極的に応援します。

スコアルーム ①

高松宮記念杯 男子50回・女子43回 全日本学生選手権

開催期日：2007年11月9日(金)～14日(水)
会　場：北海道函館市・函館市民体育館ほか

【男子】

▼1回戦

日本体育大学	40（16－14、24－12）26	桃山学院大学
福岡大学	24（10－9、14－14）23	国士舘大学
函館大学	42（18－9、24－10）19	松山大学
中京大学	32（13－12、19－15）27	富士大学
筑波大学	40（20－11、20－16）27	関西学院大学
大阪経済大学	35（17－15、18－10）25	道都大学
中央大学	39（20－11、19－6）17	愛知大学
法政大学	32（12－17、20－12）29	名城大学
日本大学	32（16－8、16－10）18	高松大学
金沢大学	34（16－15、18－18）33	同志社大学
大同工業大学	38（23－14、15－10）24	北海道大学
中部大学	30（15－14、15－9）23	東海大学
早稲田大学	41（22－14、19－8）22	名桜大学
大阪体育大学	34（14－12、20－8）20	秋田大学
順天堂大学	42（13－18、29－13）31	琉球大学
明治大学	30（14－9、16－17）26	関西大学

▼2回戦

日本体育大学	38（16－13、22－14）27	福岡大学
中京大学	39（21－12、18－17）29	函館大学
筑波大学	39（21－13、18－8）21	大阪経済大学
中央大学	37（16－12、21－20）32	法政大学
日本大学	46（25－8、21－8）16	金沢大学
中部大学	30（12－11、18－17）28	大同工業大学
早稲田大学	32（16－17、16－12）29	大阪体育大学
明治大学	33（18－15、15－13）28	順天堂大学

▼3回戦

日本体育大学	30（14－10、16－16）26	中京大学
筑波大学	34（18－10、16－11）21	中央大学
日本大学	34（19－10、15－13）23	中部大学
早稲田大学	31（18－14、13－9）23	明治大学

▼準決勝

日本体育大学	33（19－14、14－18）32	筑波大学
日本大学	28（11－15、17－9）24	早稲田大学

▼決　勝

日本体育大学	36（19－16、17－13）29	日本大学

【女子】

▼1回戦

京都教育大学	52（23－5、29－7）12	北星学園大学
早稲田大学	32（16－12、16－7）19	愛媛短期大学
富士大学	25（11－14、14－10）24	中京大学
天理大学	24（13－10、11－11）21	日本体育大学
中京女子大学	24（10－15、14－6）21	東北福祉大学
日本女子体育大学	32（14－10、18－18）28	福岡教育大学
関西大学	26（14－14、12－10）24	国士舘大学
小松短期大学	46（23－7、23－13）20	琉球大学

▼2回戦

筑波大学	43（23－13、20－10）23	京都教育大学
福岡大学	30（12－14、18－12）26	早稲田大学
茨城大学	37（22－10、15－15）25	富士大学
大阪教育大学	29（13－10、16－7）17	天理大学
東京女子体育大学	44（23－10、21－4）14	中京女子大学
日本女子体育大学	37（18－20、19－16）36	大阪体育大学
東海大学	26（14－9、12－9）18	関西大学
武庫川女子大学	45（21－13、24－9）22	小松短期大学

▼3回戦

筑波大学	41（26－9、14－12）21	福岡大学
大阪教育大学	24（12－10、12－11）21	茨城大学
東京女子体育大学	31（19－8、12－9）17	日本女子体育大学
武庫川女子大学	28（13－13、15－10）23	東海大学

▼準決勝

筑波大学	33（15－10、18－8）18	大阪教育大学
東京女子体育大学	32（16－13、16－14）27	武庫川女子大学

▼決　勝

筑波大学	30（14－14、16－13）27	東京女子体育大学

スコアルーム ②　第59回全日本総合選手権大会

開催期日：2007年12月20日（木）～24日（月）
会　場：東京都・駒沢体育館、駒沢屋内球技場

【男　子】

▼1回戦

早稲田大学	42（24－13、18－15）28	ＨＣ秋田
日本体育大学	44（21－12、23－17）29	トヨタ自動車
筑波大学	50（18－17、32－14）31	北陸高校
日本大学	27（10－11、17－14）25	ホンダ熊本

▼2回戦

早稲田大学	36（20－12、16－18）30	豊田合成
日本体育大学	30（17－11、13－18）29	Ｈｏｎｄａ
トヨタ紡織九州	42（22－13、20－18）31	筑波大学
北陸電力	26（14－12、12－13）25	日本大学

▼準々決勝

大同特殊鋼	34（15－11、19－14）25	早稲田大学
日本体育大学	45（24－18、21－20）38	トヨタ車体
大崎電気	37（17－13、20－20）33	トヨタ紡織九州
湧永製薬	37（23－6、14－14）20	北陸電力

▼準決勝

大同特殊鋼	37（22－10、15－14）24	日本体育大学
大崎電気	36（14－15、22－13）28	湧永製薬

▼決　勝

大同特殊鋼	35（18－13、17－15）28	大崎電気

▼順位

優　勝　大同特殊鋼（2年連続12回目の優勝）
準優勝　大崎電気
３　位　日本体育大学
３　位　湧永製薬

【女　子】

▼1回戦

大阪教育大学	27（15－14、7－8）26 （2－2　延長　3－2）	ＨＣ岡山
ＨＣ名古屋	31（15－9、16－12）21	筑波大学
三重バイオレットアイリス	22（11－7、11－12）19	洛北高校
東京女子体育大学	29（13－9、16－13）22	香川銀行T･H

▼準々決勝

オムロン	37（24－11、13－8）19	大阪教育大学
北国銀行	29（17－8、12－6）14	ＨＣ名古屋
ソニーセミコンダクタ九州	26（13－12、13－10）22	三重バイオレットアイリス
広島メイプルレッズ	29（14－6、15－18）24	東京女子体育大学

▼準決勝

オムロン	31（15－12、16－10）22	北國銀行
広島メイプルレッズ	35（21－14、14－19）33	ソニーセミコンダクタ九州

▼決　勝

オムロン	35（15－9、20－18）27	広島メイプルレッズ

▼順位

優　勝　オムロン（3年連続11回目の優勝）
準優勝　広島メイプルレッズ
３　位　北國銀行
３　位　ソニーセミコンダクタ九州





がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【北海道】佐藤　由佳子　【岩手】箱崎　敬吉　【栃木】坂本　定芳　【群馬】高橋　潔　【埼玉】岡村　昭二、松本　英之、中武　千夏　【千葉】窪田　優、藤田　八郎　【東京】佐藤　俊男、佐藤　映子、蒲生　澄子、堀江　成典、岡前　義春、三浦　丈治、青木　宏治　【神奈川】加古川　正巳、田原　やよい、白井　香代子、丸山　玲子、丸山　貴史　【富山】吉水　慎一　【石川】伊藤　義直　【福井】松田　範幸、佐々木　静夫、角谷　喜代重　【愛知】西口　誠一郎、野田　清、宮地　光男、佐藤　壮一郎、片岡　拓朗　【三重】大石　博義、細野　秀男　【滋賀】高畠　典克、澤山　奈里　【京都】守本　幸三郎、大渡　利巳、大渡　健太郎　【大阪】山中　善之祐、赤星　明、平田　光徳、深田　礼子　【兵庫】簗瀬　ちなみ　【奈良】松江　徹、松江　真理子　【鳥取】足立　逸郎　【岡山】奥埜　美峰、奥埜　啓子、木村　博子、木村　佳菜、木村　菜見、幡多　啓二　【広島】樋野村　勉、山本　伸二、白石　隆、山手　文雄　【香川】大高　恒貴　【愛媛】加藤　誠一　【佐賀】石田　恭子

【2月の行事予定】

【会議】
- 2/2(土)第２回評議員会(東京)
- 2/16(土)第３回理事会(大阪)
- 2/17(日)事務取扱責任者会議(大阪)

【大会】
2月9日(土)～11日(月)
全日本実業団チャレンジ2008(佐賀県)
2月16日(土)－17日(日)
第32回日本リーグプレーオフ(女子)　(大阪府)

ANA CUP　第32回日本リーグプレーオフ(女子)

【日程】2月16日（土）14時～
プレーオフ準決勝（リーグ通算2位対3位）
2月17日（日）14時～
プレーオフ決勝（リーグ通算1位対準決勝勝者）
【会場】大阪市立住吉スポーツセンター

【チケット】
一般・大学生　当日；1500円　前売；1300円
中・高校生　当日；1000円　前売；800円
小学生以下無料
※前売り券は、チケットぴあにて販売。

※プレーオフ詳細情報は日本リーグＨＰをご参照ください。http://www.jhl.handball.jp/

HAND BALL CONTENTS Jan. Feb.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics

sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT

THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S

THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



JOC オフィシャルパートナー

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。 表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四八七号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十年一月二十六日印刷 平成二十年二月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円

